

平成27年 9月30日

もっと現場を知る！職員短期派遣研修報告書

所属名	地域福祉課石見スタッフ	氏名	藤原温子
派遣先 団体名	益田市豊田公民館(西益田地区振興センター)		
<p>① 研修の日時</p> <ul style="list-style-type: none">・7月21日(火)8:30～17:15・7月23日(木)8:30～17:15・7月24日(金)8:30～14:00・7月25日(土)7:00～16:00・7月26日(日)6:50～14:30 <p>② 研修の内容(できるだけ詳しく記載してください。)</p> <p>7月21日・23日・24日 「清流高津川いかだ流し大会」 事前準備・公民館事務補助 (のぼり組み立て・必要品準備・館報仕分け等)</p> <p>7月25日 「清流高津川いかだ流し大会」 事前準備・前夜祭運営補助 (会場設営・写真撮影等)</p> <p>7月26日 " 運営補助、片付け (会場設営・開閉会式受付・写真撮影・片付け)</p> <p>③ 研修の感想</p> <p>(研修の全般的な感想、各団体での活動の意義や協働に対する感想(研修前後における意識の変化)等について記入してください。)</p> <p>私にとっての「公民館」は、小学校単位で設置され、住民が自由に利用できる場を提供しているというイメージであり、自分自身も公民館を利用することは図書館として利用する以外はほとんど無く、公民館は「なんとなくあるもの」であって、存在意義について深く考えたことは無かった。</p> <p>今回、当研修を受講することにより、公民館についてのイメージが一変した。一言で言うと、公民館は貴重な地域住民のコミュニティの場を提供する貴重な役割を担っているという認識を持った。</p> <p>清流高津川いかだ流し大会は、当地区の貴重な資源(高津川)を、住民自らが大切に守っていこうという意識から、地域住民の声かけにより開催されるようになり、今年で33回目を迎える伝統行事である。</p> <p>公民館職員と自治会長・町内会長、商工会が協同して数日前から大会設営され、事務局である公民館職員のみで運営するのでは無く、事前準備から当日の運営まで地域住民と公民館の強い連携により運営されており、近年地域コミュニティの機能が低下しているものと思い込んでいた私にとっては、驚きであった。</p> <p>また、大会の前夜祭は、鮎のつかみ取り、地元住民による演奏会など住民参加型の</p>			

プログラムとなっており、子供から大人まで誰でも楽しめる内容となっている。

当大会のように地域資源を利用したイベントを地域住民も一緒になって取り組んでいくことで、地域資源を再認識し、地域を守っていききたいという意識も自然と浸透するはずである。子供達も、一度は故郷を離れてもいずれは戻りたいという意識に繋がり、地域の人口流出抑制の一助になり得ると感じた。

まちづくりは、本来は官主導では無く実際に住む人間により作られていくべきであるが、最近住民同士のコミュニティ自体が希薄になり、自らの手でまちづくりする認識も低下している地域が多いのが現状だと思われる。地域行事を住民が主体となって取り組み、その調整役を公民館が担っている当地区は、官と民が良いバランスで連携が取られていると感じた。

当研修をとおして、住民による地域活動の必要性・公民館が担う役割・地域資源に実際に触れることで地域資源を伝え、守っていくことの大切さを再認識することができた。

一方で当大会の運営は70代前半の方がほとんどであり、なかなか若い世代は仕事等の理由で参加できないとのことであった。当地区でも後継者育成が課題である。

また自分自身地域活動に全くといって良いほど参加していないことを痛感した。

今後はプライベートでも地元の地域活動に眼を向けるよう意識を持っていきたい。

④ その他特記事項

(※今後の研修実施に当たっての改善点、留意しておくべきことなどがあれば記入してください。)

(注1)研修日時・内容等がわかる資料があれば、添付してください。

(注2)報告書は、平成28年1月31日までに人事課あてにメールで提出してください。